

# 研究所だより

第298号  
2010年8月25日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

## 【ほめちから】—松本徳重 著

### 1, 「ほめる」ときと「叱る」ときに気をつけることは？

あなたは「ほめる」ときと「叱る」ときの判断がその時の気分で違ってくることはありませんか？ 特に、機嫌の悪い顔の時に発する言葉は、多分にトゲを含んだ言葉を子どもに投げつけているときが多いものです。もちろん、教師も人間ですから、機嫌の良いとき、悪いときはありますし、感情的になってしまうことがあってもいいと思います。

ですが、その時の機嫌で「ほめる」「叱る」基準がコロコロ変わってしまっ  
ては「良いこと」「悪いこと」の子どもの価値観の基準が曖昧になり、無用の  
混乱を与えてしまいます。

気をつけなければならないことは、感情のおもむく  
まま、気に障ったことをなんでも指導するのを避けて、  
「なんのために」「何を」「どのように」するのかを  
考えながら、接していくことが大切です。



### 2, 子どものどこをほめたらよいのですか？

理想は、どの子に対しても分け隔てなく公平に、見  
逃しがちな長所や他の子どもと違う個性を見つけてほ  
めてあげられることです。

良いところを「ほめる」ことで子どもは自信を持ち、  
今まで短所だったことも克服するように努力するもの  
です。一人ひとりの長所や個性を公平に「ほめる」こ  
とで子どもとの信頼関係が増していきます。

また、いつも子どもを見つめ「ほめる」材料を見つけ出そうとすることは、  
子どもを見つめる視野を広げることになります。授業中のこと、休み時間のこ  
と、掃除中、学級の取り組みの時、係活動や当番活動、などなど、子どもがい  
れば「ほめる」材料は転がっています。要は、それを見つけ出す視点があるか  
どうかです。

## <賢い人ほどよく笑う>—森 隆夫（日本教育文化研究所所長）

「賢い人ほどよく笑う」、これはユダヤの諺である。なぜ賢い人ほどよく笑うの  
か、と思ひ解説を読むと、会話の中でユーモアやジョークを言える人、そしてそれ  
を理解できる人は、よく笑うとある。それではユーモアの言える人はなぜ賢いのか、  
また、ユーモアを理解できる人はなぜ賢いのだろうか。

その答えは、ユーモアやジョークを言えたり、それを理解するには頭脳が素早く  
反応しなければならないということ。そして素早い頭脳の反応には、二つの前提が  
あり、一つは、「連想力」、次に「多角的な幅広い知識」が要求されるから、ユー  
モアやジョークを言っていると頭の訓練になるというのだ。近頃わが国でも流行し  
ている「脳トレ」には、ユーモアやジョークがよいということにもなる。

要するに、「多角的な幅広い知識」（教養）があり、それに加え「連想力」のあ  
る人が、ここでいう賢い人の定義になる。

## <以南人物伝・池 道之助（2）>—広報とさしみず より

慶応3年（1867年）4月、道之助が坂本龍馬と活躍する事となる事件が起き  
ました。龍馬率いる「いろは丸」が大阪へ行く途中、瀬戸内海で紀州藩船に衝突さ  
れ沈没したのです。現場近くの鞆の浦で交渉を始めましたが、相手は徳川御三家、  
まともに応じようとはせず、長崎へ行ってしまいました。

立腹した龍馬は長崎に引き返し、決死の覚悟で談判に臨みます。万国公法（国際  
法）をひっさげての交渉でしたが話が進みません。

龍馬は土佐藩重役後藤象二郎を表に立てることとし、後藤に信任の厚い道之助も  
談判の席に加わることとなりました。「後藤様、横山、予（道之助）、才谷梅太郎  
4、5人連ニテ聖福寺へ行き紀州藩ト談判ス」（道之助日記）

厳しい交渉が何回も行われ、遂に音を上げた紀州藩は薩摩藩に仲裁を頼み、土佐  
藩に、賠償金8万3千両を支払うこととなりました。しかし、これは現在の金額に  
して約20億円余の大金で支払いはなかなか実行されず、最終的には7万両に減額  
されましたが、道之助は岩崎弥太郎と共にこの賞金の請求、受領にも努めました。

また、道之助は龍馬配下の海援隊士が長崎でイギリス水兵惨殺の疑いをかけられ  
た時も、岩崎弥太郎と共に長崎奉行所と徹夜で交渉するなど、無実を証明するた  
めに尽力しました。坂本龍馬、後藤象二郎が命をかけた大政奉還が実現して、世が維  
新に向かって走っていった明治元年4月、高知に帰った道之助は長崎での活躍が認  
められ、足軽に任じられ、地位も一つ上になりました。喜んだ道之助は休暇を取  
って翔ぶような思いで郷里中ノ浜に帰りました。しかし、この時すでに道之助の身体  
はむしばまれていたのでしょうか。いったんは高知の開成館へ出仕しますが、再び  
休暇を取って帰ってからは「半身かなわず中風の様」になり明治2年4月御役御免  
になってしまいました。

道之助の才能を惜しんだ近郷の庄屋らは健康を持ち直した道之助を推挙してく  
れ、越・養老・加久見等の区長になりましたが、その翌年（明治5年）7月病没し  
ました。52歳でした。

岩崎弥太郎をはじめ長崎での知己が大活躍をした明治の世、健康でさえあれば道  
之助は、さらに大きな人生を歩んだらうに、残念に思われます。

彼は今、中浜墓地に静かに眠っています。

道之助が書き残した日記や「今昔地震津浪説」「異国人風俗描写図」「文物見聞  
録」などは、貴重な資料として市の保護文化財になっています。

中ノ浜出身の池道之助の功績は、

- ・大地震の予兆は井戸水が枯れたり濁ったりすることでわかるということや、避  
難する際の心得を後世に残したこと
- ・明治維新に関わりを持った人物（坂本龍馬、岩崎弥太郎、ジョン万次郎、後藤  
象二郎など）との交流を日記に記し、貴重な資料を残してきたこと
- ・当時の高知や長崎への道中記で宿泊先やかかった日数等が判明したことや、  
万次郎と行を共にし中国の文化等を見聞したことや長崎出張中の見聞知識等  
を持ち帰ったこと

池道之助。初めて聞く名前の方もおいでではないでしょうか。土佐清水市郷土史  
同好会の皆さんが調べてくれたものです。この以南の地にも、ジョン万次郎はじめ  
として加久見左右衛門や上田亀之助、沖市左衛門、上田庄三郎等の以南地域の発展  
に尽くしてきた人物がいます。池道之助に関しての学習会が毎月第3土曜日の午後、  
文化会館和室で行われています。興味のある先生方は参加してみたいか  
でしょうか。